

國學院大學學術情報リポジトリ

靈魂觀と死生觀に関する研究の活動報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001564

霊魂観と死生観に関する研究の活動報告

日本文化研究所では、2022年度より準備を進めてきたプロジェクト「霊魂観と死生観に関する研究」を2023年度、本格的に始動した。本学研究開発推進機構助教の川嶋麗華を代表に、学術資料センター（考古部門）共同研究員の柳原（壬生）友子、日本文化研究所客員研究員の高田彩、ポスドク研究員の大場あやをメンバーとして活動している。

2023年度は、主に三宅島に関する資料調査および現地調査に加え、Zoomを用いたオンラインでのインタビューおよび研究会を行った。以下にそれぞれ報告する。

まず、三宅島での現地調査に向けて、三宅島に関する先行研究を広く収集し、研究状況の把握および本プロジェクトにおける研究対象の選定を行った。伊豆諸島の民俗に触れた研究はいくつか見られるものの、三宅島のとくに葬送習俗に関する研究はかなり限定的であった。5月9日、18日にオンラインミーティングを行い、三宅島の葬儀は具体的にどのような行われ、どのような人々が関わってきたのか解明することを当面の課題とした。

6月8日、三宅島在住の浅沼等氏にオンラインにて、シンルイと呼ばれる葬儀の互助関係についてお話を伺った。7月3日には、島への移住者であり、伝統芸能の調査研究・啓蒙活動を行う本プロジェクトのメンバー・柳原氏に対面でのインタビューを実施した。

以上を踏まえ、8月15日～17日にかけて、川嶋・大場が現地調査を行った。神着地区を中心に、盆行事や島内各墓地での墓参の様子、祖霊社での小祭を見学し、数名の島民の方に

シンルイに関するインタビューを行った。加えて、村役場職員の方に村営火葬場を案内していただき、火葬炉など各種設備をはじめ、斎場や待合室などを見学させていただいた。

9月29日には、柳原氏への2回目のインタビューを対面にて実施し、女性神職としての仕事などについて話を伺った。

10月9日～11日に予定していた現地調査は、搭乗予定便欠航のためやむなく中止となった。その代わり、村営火葬場および墓地関係担当の職員・旧職員の方へ電話での聞き取りを行うなどして、情報収集を進めた。

10月27日には、日本文化研究所の研究補助員である牧田小有玲氏に、女性神職と地方神社の活動について研究発表をしていただき、本プロジェクトの課題と絡めて議論を行った。

2024年2月12日～17日にかけては、川嶋・高田が現地調査を行った。三宅村立図書館・郷土資料館での資料調査のほか、御笏神社・二宮神社・富賀神社の行事見学、葬儀関連業者や婦人部、神教歌の担い手など島民の方へのインタビューを実施した。

以上の各種調査結果については、2024年6月15日～16日開催の「宗教と社会」学会第32回学術大会（於國學院大學）にて、テーマセッション「人の移動と葬送文化の継承・再編—三宅島の葬儀の担い手と芸能の伝承者に着目して—」として報告を行った。本プロジェクトのメンバーがそれぞれ発題し、伊藤純氏（川村学園女子大学准教授）、問芝志保氏（東北大学准教授）にコメントをいただいた。本セッションについては、次号にて詳報したい。

（大場あや）